

# 家 庭

## 1 科目編成

改 訂		現 行	
科 目 名	標準単位数	科 目 名	標準単位数
家 庭 基 礎	2		
家 庭 総 合	4	家 庭 一 般	4
生 活 技 術	4	生 活 技 術	4
		生 活 一 般	4

必修科目は、「家庭基礎」、「家庭総合」及び「生活技術」のうちから1科目である。

## 2 改訂の基本方針

今回の改訂においては、次のように改善が図られた。

- (1) 現行の普通教育と専門教育の家庭科を同一の目標としている扱いを改め、普通教育としての家庭科の目標を明確に示す。
- (2) 3科目ともに、男女共同参画社会の推進、少子高齢化等への対応を考慮して、人の一生を生涯発達の視点でとらえることとし、家族・家庭、生活を営むために必要な衣食住や消費生活などを総合的にとらえる構成とする。
- (3) 実践的・体験的な学習活動を一層重視し、生活に必要な知識と技術を習得させるとともに、学習した知識と技術を生かして、問題解決を図る能力の育成を重視する。

## 3 改善の内容

### (1) 目 標

人間の健全な発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解させるとともに、生活に必要な知識と技術を習得させ、男女が協力して家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる。

普通教育としての家庭科は、人々が互いにかかわり合いながら共に生きる社会の一員としての自覚のもとで、男女が協力して家庭生活を築いていく意識と責任を明らかにし、家庭生活を営むために必要な知識と技術を身に付け、家庭や地域の生活を創造する意欲・能力と実践的な態度を育てることを目指している。内容の改善の要点は次のとおりである。

- ア 男女共同参画社会の推進への対応
- イ 少子化への対応
- ウ 高齢化への対応

- エ 食に関する指導の充実
- オ 消費者教育及び環境教育の充実
- カ 問題解決的学習の充実

(2) 各科目

ア 目標

家庭基礎	人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。
家庭総合	人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣食住、消費生活などに関する知識と技術を総合的に習得させ、生活課題を主体的に解決するとともに、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。
生活技術	人の一生と家族・福祉、消費生活、衣食住、家庭生活と技術革新などに関する知識と技術を体験的に習得させ、生活課題を主体的に解決するとともに、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

イ 内容の構成と取扱い

〈家庭基礎〉

内容の構成	取扱い
(1) 人の一生と家族・福祉 ア 生涯発達と家族 イ 乳幼児の発達と保育・福祉 ウ 高齢者の生活と福祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容の(1)のイ及びウについては、学校や地域の実態等に応じて、学校家庭クラブ活動等との関連を図り、乳幼児や高齢者との触れ合いや交流などの実践的な活動を取り入れるよう努めること。</li> <li>・内容の(2)については、実験・実習を中心とした指導を行うよう留意すること。アについては、栄養、食品、調理の関連を図って扱うようにすること。イについては、衣服を中心として扱い、被服材料については布を扱うこと。</li> </ul>
(2) 家族の生活と健康 ア 食生活の管理と健康 イ 衣生活の管理と健康 ウ 住生活の管理と健康	
(3) 消費生活と環境 ア 家庭の経済と消費 イ 消費行動と環境	
(4) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容の(3)のアの消費者の権利と責任については、契約、消費者信用、問題の発生しやすい販売方法などを取り上げて具体的に扱うこと。イについては、環境負荷の少ない生活に重点を置くこととし、地球環境問題に深入りしないこと。</li> <li>・内容の(4)については、ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の意義と実践方法について理解させること。また、指導に当たっては、内容の(1)から(3)までの学習の発展として、生徒が生活の中から課題を見だし、解決方法を考え、計画を立てて実践できるようにすること。</li> </ul>

〈家庭総合〉

内容の構成	取扱い
(1) 人の一生と家族・家庭 ア 人の一生と発達課題 イ 家族・家庭と社会 ウ 生活設計	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容の(1)のウについては、(1)のア、イ、(2)及び(3)の内容との関連を図るとともに、(1)から(5)までの学習の中で段階的に扱ったり、「家庭総合」の学習のまとめとして扱うなどの工夫をすること。</li> <li>・内容の(2)については、学校や地域の実態等に応じて、学校家庭クラブ活動等との関連を図り、幼稚園や保育所等の乳幼児、近隣の小学校低学年の児童等との触れ合いや交流の機会をもつよう努めること。</li> </ul>
(2) 子どもの発達と保育・福祉 ア 子どもの発達 イ 親の役割と保育 ウ 子どもの福祉	

(3) 高齢者の生活と福祉 ア 高齢者の心身の特徴と生活 イ 高齢者の福祉 ウ 高齢者の介護の基礎	・内容の(3)については、学校や地域の実態等に応じて、学校家庭クラブ活動等との関連を図り、福祉施設等の見学やボランティア活動への参加をはじめ、身近な高齢者との交流の機会をもつよう努めること。イの高齢者福祉サービスについては、代表的なものを扱うこと。ウについては、日常生活の介助として、食事、着脱衣、移動などのうちから選択して実習させること。
(4) 生活の科学と文化 ア 食生活の科学と文化 イ 衣生活の科学と文化 ウ 住生活の科学と文化 エ 生活文化の伝承と創造	・内容の(4)については、実験・実習を中心とした指導を行うよう留意すること。イについては、衣服を中心として扱い、被服材料については布を扱うこと。エについては、アからウまでのいずれかにかかわる課題を取り上げて実験・実習等をさせること。 ・内容の(5)のウについては、契約、消費者信用、問題の発生しやすい販売方法などを取り上げて、消費者の権利と責任について具体的に理解させることに重点を置くこと。エについては、生活と資源と環境とのかかわりについて具体的に理解させることに重点を置くこととし、地球環境問題には深入りしないこと。
(5) 消費生活と資源・環境 ア 消費行動と意思決定 イ 家庭の経済生活 ウ 消費者の権利と責任 エ 消費行動と資源・環境	・内容の(6)については、ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の意義と実践方法について理解させること。また、指導に当たっては、内容の(1)から(5)までの学習の発展として、生徒が生活の中から課題を見だし、解決方法を考え、計画を立てて実践できるようにすること。
(6) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	

### 〈生活技術〉

内容の構成	取扱い
(1) 人の一生と家族・福祉 ア 生涯発達と家族 イ 乳幼児の発達と保育・福祉 ウ 高齢者の生活と福祉	・内容の(1)のイ及びウについては、学校や地域の実態等に応じて、学校家庭クラブ活動等との関連を図り、乳幼児や高齢者との触れ合いや交流などの実践的な交流を取り入れるよう努めること。 ・内容の(2)のアの消費者の権利と責任については、契約、消費者信用、問題の発生しやすい販売方法などを取り上げて具体的に扱うこと。イについては、環境負荷の少ない生活の工夫に重点を置くこととし、地球環境問題に深入りしないこと。
(2) 消費生活と環境 ア 家庭の経済と消費 イ 消費行動と環境	・内容の(3)のイについては、生徒の実態に応じて適切なソフトウェアを選択して、その基本操作ができるようにすること。また、情報通信ネットワークを活用した情報の収集、処理、発信を扱い、コンピュータを家庭生活に活用できるようにすること。その際、情報のモラルについて理解させること。ウについては、身近な家庭用機器を取り上げて、具体的に扱うこと。
(3) 家庭生活と技術革新 ア 科学技術の進展と家庭生活 イ 家庭生活と情報 ウ 家庭生活と電気・機械	・内容の(4)のイについては、調理用機器の特徴を生かした調理や食品の加工に着目した調理についても扱うこと。
(4) 食生活の設計と調理 ア 家族の食生活と栄養 イ 食品と調理 ウ 食生活の管理	
(5) 衣生活の設計と製作 ア 被服の機能と着装 イ 被服の構成と製作 ウ 衣生活の管理	
(6) 住生活の設計とインテリアデザイン ア 家族の生活と住居	

イ 住居の設計とインテリア計画 ウ 住生活の管理 エ 生活と園芸 (7) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	・内容の(7)については、ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の意義と実践方法について理解させる。また、指導に当たっては、内容の(1)から(6)までの学習の発展として、生徒が生活の中から課題を見だし、解決方法を考え、計画を立てて実践できるようにすること。
各学校においては、内容の(3)から(6)までの中から、生徒の興味・関心等に応じて、二つ又は三つの項目を選択して履修させること。	

#### 4 質疑応答

問1 3科目それぞれの特色及び目標や内容の共通点はどのようなものか。

「家庭基礎」は生活に必要な基礎的・基本的な知識と技術の習得に重点を置いた科目である。「家庭総合」は、「家庭一般」を改めた科目であり、家庭生活を総合的にとらえ主体的に営む能力と態度を育てることに重点を置くものである。「生活技術」は、家庭生活を合理的に管理するために必要な生活技術に重点を置き、実習や体験的な学習を中心とした科目である。

また、目標の共通点は、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てることであり、特に「家庭総合」及び「生活技術」においては、生活課題を解決する実践的な態度の育成に重点を置いている。内容の共通点は、人の一生と家族・家庭、子どもの発達と保育・福祉、高齢者の生活と福祉、消費生活と環境、ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動などである。

問2 教育課程編成上の留意点は何か。

「家庭基礎」は原則として、同一学年で履修させること。「家庭総合」及び「生活技術」を複数の年次にわたって分割して履修させる場合には、原則として連続する2か年において履修させること。

問3 ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動が位置付けられた理由と授業への効果的な活用法はどのようなことがあるか。

家庭科で学習した内容が、生きて働く力になるためには、生徒自らが生活の中から課題を見だし、解決方法を考え実践する問題解決的な学習の機会が重要であることから、現行どおり3科目にそれぞれ位置付けられた。

また、乳幼児や高齢者の学習において、触れ合いや交流などの機会に学校家庭クラブ活動と関連を図ることにより、一層実践的な学習を展開することができる。ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動は、家庭科の総合性を特色付ける学習である。